

おこづかいが足りなくなったらどうする？

～ママFPのひとりごと Vol. 21～

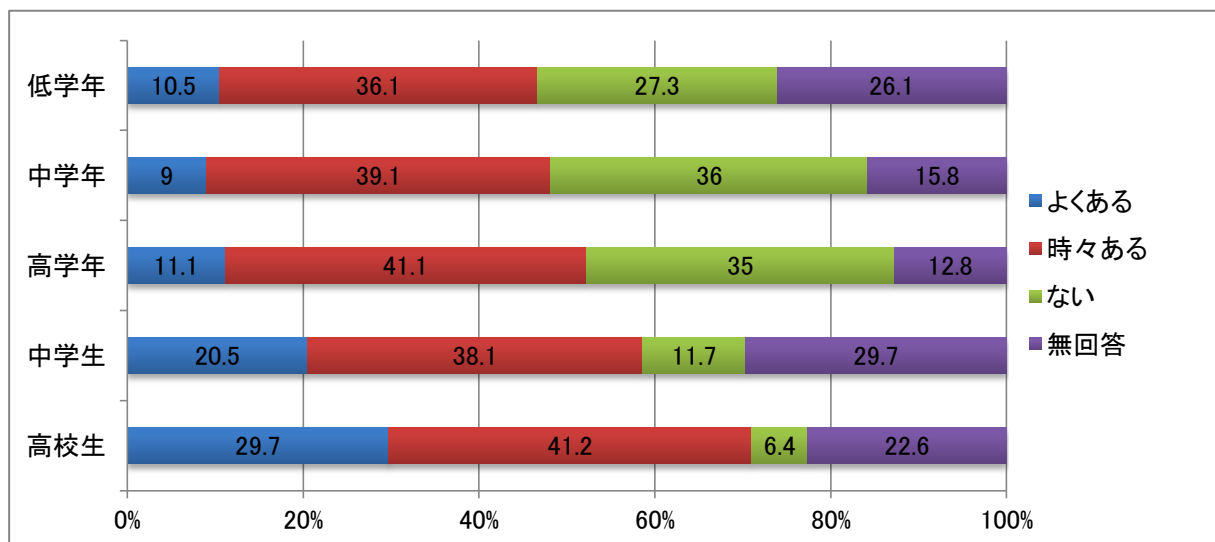
ファイナンシャルプランナー 鈴木さや子

お金の管理に慣れていない子どもにとって、貯金箱に入っている金額よりも高いモノが欲しくなってしまうことは、往々にしてあること。もし子どもから「どうしても欲しいモノがあるけれど、貯金箱0円になっちゃった。」と言われたら、親としてどう対応すればよいでしょうか。

1. 子どもに訊くおこづかいが不足した場合の対応

おこづかいが不足した経験を持つ子どもは、どのくらいいるのでしょうか。おこづかいをもらっている小中高生を対象に、金融広報中央委員会が調査した結果から、「おこづかいが不足した経験」と「おこづかいが不足したときの対応」を紹介します。

【おこづかいが不足した経験】



小学校1年生からおこづかいを渡している我が家の子どもを見てみると、低学年の頃は自分のお金があることが嬉しくて、色々なモノを買っていましたが、次第にもったいないと思うようになり、中学年には使わないように。

しかし高学年になると、欲しいモノが増えてきて、おこづかいで自由に買い物を楽しむようになりました。データ結果を見ても、同様の傾向が現れているかと思えます。

中学生になると5人に1人、高校生になると、3人に1人は、おこづかいが不足することが「よくある」と回答していることがわかります。それでは、子どもはおこづかいが不足したら、どう対応しているのでしょうか。

【おこづかいが不足した時の対応（小学生）】

対応	低学年	中学年	高学年
買いたい物を我慢する	48.6%	52.8%	58.0%
お手伝いをして「おこづかい」をもらう	22.6%	21.9%	18.9%
「おこづかい」をもらう (欲しいといえばもらえる)	5.9%	6.7%	7.9%
その他・無回答	22.9%	18.6%	15.3%

【おこづかいが不足した時の対応（中学生・高校生）】

対応	中学生	高校生
「おこづかい」で買いたいもの自体を諦める	43.0%	35.9%
アルバイトなどして、お金を手に入れてから買う	1.6%	4.8%
次（翌月など）の「おこづかい」を前借りする	14.6%	16.5%
兄弟姉妹から借りる	3.2%	2.5%
友達から借りる	1.2%	2.2%
貯めておいた預金や貯金をおろして買う	19.0%	23.2%
その他・無回答	17.4%	15.0%

(データ引用元：「子どものくらしとお金に関する調査（第2回）平成22年度」／金融広報中央委員会)

小学生でおこづかいが不足した時には、ほぼ半数の子どもが「我慢する」と回答しているのに対し、中高生になると、諦める子どもが減り、何らかの方法で手に入れようとしている子どもが増えていることが分かります。また、欲しいといえばもらえるからと、不足したら追加でおこづかいをもらっている子どもや、翌月などのおこづかいを前借りする子どもも、少なくありません。

中高生では、兄弟姉妹や友達から借りると回答している子どもが、それぞれ5%近くもいることは、注意すべき問題と言えるでしょう。

こうした子どもたちの対応は、マネー教育の観点から、どのような危険性をはらんでいるのでしょうか。

2. 「足りなくなっても大丈夫」と思う子どもにはさせないで

貯金箱のお金を使い切ってしまった時、親にねだってお金をもらうことや、翌月のおこづかいを前借りするなどの経験が積み重なると、子どもは次のように思ってしまう可能性があります。

- ・ 足りなくなったら誰かが助けてくれる
- ・ 足りなくなったら借りればなんとかなる
- ・ 足りなくなっても大丈夫

借金に対する罪悪感や自分で生きる力が欠落した大人になると、多重債務者やニートになってしまう危険性をはらんでいると考えられます。ひどい場合は親のスネをかじり続けるような大人になることも。我が子がそうならないためにも、親が断固とした強い意志を持って、お金管理に関して教えていってくださいね。

かわいい我が子が困っていたら、助けてあげたいと思うのが親というもの。しかし、何でも助けてあげればいいということではありません。子どもは必ず親の手を離れていくものです。その時に、一人でたくましく生きていけるよう、小さい頃からその日を意識して見守ってあげたいものですね。

《今月のお気に入り曲》

交響曲第5番／マーラー作曲

葬送の第1楽章に始まり、途中映画「ベニスに死す」で使われたことで有名な、第4楽章アダージェットを経て、最後は明るく華やかに締めくくられます。とても聴き易い曲です。